

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人石丸九郎の上告趣意のうち、大審院大正八年（れ）第一七〇四号同年一月一三日判決・刑録二五輯二五巻一〇八一頁を引用して判例違反をいう点は、右大審院判決はすでに当裁判所の判例（昭和二九年（あ）第二五二三号同三三年四月一八日第二小法廷判決・刑集一二巻六号一〇九〇頁）によつて変更されたと解されるから、その前提を欠き、東京高等裁判所昭和二八年（う）第三〇八四号同二九年四月一三日判決・東高時報五巻三号一〇九頁を引用して判例違反をいう点は、右東京高等裁判所の判決は、前記の当裁判所の判決により破棄されているから、刑訴法四〇五条三号にいう判例にあたらず、いずれも適法な上告理由にあたらない。

よつて、同法四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和五六年三月一〇日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	横	井	大	三
裁判官	環		昌	一
裁判官	伊	藤	正	己
裁判官	寺	田	治	郎